

委員会行政視察実施報告書

(視察箇所ごとに作成、行数は任意で追加)

委員会名	議会運営委員会
参加委員 ◎委員長、○副委員長	◎齋藤 仁一 ○小島 雄一 渡部 一樹 蛭川 靖弘 菊地 とも子 長澤 勝幸 伊藤 弘明

1 本市の課題と視察の目的

議会運営（改革）に係る取組について、出雲市議会において取り組まれている「予算審査の進め方」や「タブレット端末の活用について」、その他、同市で取り組んでいる事項について、その進捗と状況を視察研修し、本市の議会運営（改革）の参考とするため研修を実施。

2 実施概要

実施日時	視察先	島根県 出雲市
令和元年 10 月 24 日（木） 10 時 30 分～11 時 58 分	担当部局	出雲市議会（議会運営委員会、広報広聴調査推進委員会）
視察項目	予算審査の進め方など議会運営（改革）の取組状況について	
報告内容	<p>1 予算審査方式について</p> <p>予算不可分、最終的審査は一つの委員会において行うという考え方により、これまで検討を進めてきた経緯がある。</p> <p>○分科会方式（平成29年9月～）</p> <p>全議員で構成する予算特別委員会に付託する形式。</p> <p>分科会の流れ</p> <ul style="list-style-type: none">・一般質問最終日：予算特別委員会全体会の開催。この会議では、総括質疑として、予算総括に関する質疑のみとし、個別事業について質疑はしない。・各常任委員会日：まず、各常任委員会の条例、単行、請願等の審査。次に、予算特別委員会の各分科会に切り替え予算の審査、その後、各常任委員会に戻り、その他の事項の説明、採決が行われている。・各常任委員会（予算分科会）終了後：予算特別委員会全体会の開催。この会議では、各分科会長の報告、報告に対する質疑、採決が行われる。・本会議最終日：本会議において、予算委員長から報告。報告に対する質疑、討論、採決。 <p>現行方式の長所について、 ・全議員が審査に関わることができる。 ・常任委員会の専門性を生かした審査ができる。 ・条例、施策、予算を一括審査することで、委員会の活性化につながる。 短所として、 ・進め方が煩瑣である。 ・2度目の全体会が形式的になりやすい。 ・個別事業について全議員で審査する場がないといった整理がなされている。</p>	

○ これまでの経緯：平成17年6月～平成20年12月：分割付託方式。平成21年3月～12月：平成21年の分科会方式。平成22年3月～平成29年6月：議員半数による予算特別委員会方式

2 タブレットの活用

平成26年12月定例会から導入。(平成27年6月には、執行部も導入)。

○活用概要

議案書等議会資料の閲覧(本市議会と同じサイドブックを導入)。インターネットの閲覧。その他(視察時の活用、事務局との連絡送受信)。

○目的と効果

目的は、「議員の利便性の向上と、それによる審議の深化」としていた。とかくペーパーレス化として、費用対効果があげられるが、それでは効果は出ないとのことである。

タブレットの優位性を生かし、審議をより深めることに目的を置いている。あいまいな記憶ではなく正確な情報での的確な質疑が可能であることが重要。

タブレットの優位性：①資料の持ち運びが容易、②資料を素早く検索、③資料保存スペースが不要。

効果：①議員の利便性の向上＝審議の深化、②紙の消費量の削減、③事務の軽減・コスト削減、④議員活動の活性化。

ペーパーレス化については、「主たる目的」ではないが、少しでもペーパーレス化を図ることについては、毎年、議員に紙資料の配付について希望をとっている。タブレットを使いこなせるかどうかは議員の資質に関係するものではないということから希望に沿った対応をとっているとのことである。

3 議会CATV等について

・ウェブサイトの刷新では、独自のドメインを取得し運営。リニューアル前後では、アクセス数が3万件から16万件になった。

・CATVが普及しているため、広報媒体として活用。わかりやすく、シンプルで興味を持っていただける番組(中学生でも理解できるよう)に。



考察 (まとめ)

予算審査方式については、議員のチェック機能を十分に果たすためにどのような方法にするか大変重要な視点である。その意味では、出雲市議会の全議員による予算特別委員会を設置し、全体会を最初と最後に1回ずつ、間に各常任委員会及び分科会での審査を入れ、十分な日程を確保して審査をしていることは、喜多方市議会でも十分に検討していく必要性を感じた。また、決算審査が議員の半数で行われているため全員での検討に入っているとのことである。この点についても、本市議会でも検討すべきと感じた。